

洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（素案）策定に係るパブリックコメントの実施結果について

下記のとおり実施し、2人から合計9件の意見提出がありました。

実施時期	令和6年11月28日から令和6年12月27日まで
意見提出状況	提出者：2人 （内訳） 町内在住者：2人 意見数：9件
意見提出方法	1 各実施場所に設置した意見箱に投函：0人 2 産業振興課へ意見書を持参：0人 3 産業振興課へ意見書を郵送：0人 4 産業振興課へ意見書をメール提出：1人 5 産業振興課へ意見書をFAX提出：1人

洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（素案）パブリックコメント意見および回答

ページ・ 該当箇所	意見	回答	計画修正 の有無
① P123～125	計画策定の経緯では1年間程度で本素案が作成・提示されたと見られますが、素案として非常に纏まったものと感じました。 策定委員ばかりでなく北海道環境財団およびバイオマスリサーチ(株)との連携の成果と思います。	・貴重なご意見ありがとうございます。	無
② P120～	素案にもあるように、PDCA サイクルの中での見直しにより更に実効性の高いものに改編していただきたい。	・ご意見として承りました。策定委員会において毎年度 PDCA を行い、本計画に基づく具体的な取組・施策の実施状況や社会情勢の変化などを踏まえて、必要に応じて本計画の改善を行ってまいります。	無
③ P46～	洞爺湖町の再生可能エネルギー導入ポテンシャルを非常に高く感じ、実施施策の選択・実施によってはゼロカーボン達成への可能性を強く持ちました。 他自治体に比較して洞爺湖町には、同ポテンシャルに関しての優位性があると感じましたが、そうであれば今後の提示の中でアピールしていただきたい。	・ご意見として承りました。ご指摘のとおり洞爺湖町は再生可能エネルギー導入ポテンシャルが高く、2050年ゼロカーボン実現の可能性が十分にあると考えます。 今後は、再生可能エネルギーの現状や最新技術などの動向を把握し、広報などを通じて、洞爺湖町の再生可能エネルギーのポテンシャルや必要性等をアピールしてまいります。	無
④ P120、121	目標達成には町民・企業の積極的な協力が不可欠であり、計画の実施状況の公表においては、「見える化（進捗度の数値化）」等により、住民・企業の「参加の必要性」を訴えていただきたい。	・ご意見として承りました。ご指摘の点につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。	無

ページ・ 該当箇所	意見	回答	計画修正 の有無
⑤ P62、87、95	三豊トンネルの小水力発電導入は、岡山市水道局のようなイメージと思いますが、対象となる三豊・青葉トンネル水道送水管は水道送水だけが目的ではなく、三豊・青葉トンネル内に設置された「消火栓」他のトンネル消火設備への給水用に設計された管路であり、消火ポンプ他消火給水設備との両立を検討する必要があります。この水道送水管は月浦浄水場から温泉地区への送水管から三豊トンネル起点（洞爺湖側）で分岐し、青葉トンネル終点（海側）まで送水し清水配水池への送水管へ接続するもので、両トンネル間の明かり部（地上部）で分岐し、三豊配水池へも送水するものです。 私の記憶では三豊・青葉トンネル竣工直後は、清水配水池へのトンネル送水管からの送水が開始されたことにより、月浦浄水場の浄水負荷軽減のために、三豊配水池への送水は停止されていました。 現状の運用状況を把握していませんが設備設計仕様では、月浦配水池と三豊配水池での水位差は140m程度、三豊配水池への計画送水量は毎時170m³程度だった筈ですが、消火設備機器の最高使用圧力の制限で三豊トンネル起点側に減圧弁を設置しているために水力発電で利用可能な有効落差は少なくなっています。 本トンネル送水管路は、国交省北海道開発局が管理する三豊・青葉トンネル消火設備の重要な構成機器であり、単独の上水道送水管路と異なり、小水力発電の導入には検討事項が多いと考えます。 三豊配水池内の消火ポンプ室には三豊配水池への送水状態を連続監視できる圧力センサーと電磁流量計があるので、小水力発電導入の効果を推測する事は可能と考え、素案での設備発電出力20.4kWを算出した水量および有効落差の数値には非常に興味があります。	・貴重なご意見ありがとうございます。ご指摘の点につきましては、今後の施策検討の参考にさせていただきます。	無

ページ・ 該当箇所	意見	回答	計画修正 の有無
⑥ P81～	11/24のセミナーに参加し、地球温暖化対策が待ったなしの状況にあることを洞爺湖町としても認識していることを知り、実行計画（案）に期待していました。 削減目標については具体的で明確だと感じました。しかし、そのあとに続くページでは、町民一人ひとりや町や事業者がどうするのかがわかりません。例えば、当面、省エネ行動や省エネ設備の導入で削減する計画のようですが、それは各家庭で今行っている省エネ家電の利用や省エネ行動では足りないのか、だとすれば、何をどう変えればいいのかかわからず、これでは温暖化対策は一向に進まないのではないのでしょうか？「2050 年脱炭素社会実現に向けたシナリオに関する一分析」（国立環境研究所）を見ましたが、化石燃料から電力へのシフトチェンジなど具体的でわかりやすかったです。このような工夫が必要だと思います。	・ご意見として承りました。町民一人ひとりや事業者が無理なく行える省エネの取組などにつきましては、本計画の概要版や町の広報等を通じて、今後継続的に周知してまいりたいと思います。また、町民の皆様が積極的に脱炭素の取組を行っていただけるような「伝わる」工夫にも努めてまいります。	無
⑦ P99～	温暖化対策は省エネと再エネがどうしても必要ですが、再エネの導入について、2050 を見通しても重点になっていないのはなぜでしょうか。 11/24 のセミナーでもエネルギーの地産地消が大事であると言われていました。それができれば、温暖化対策は一段と進むと思います。再エネ業者も町からや町民自らの小口投資も考えればよいのでは？と思います。長野か群馬？でやっていましたよね。	・ご意見として承りました。本計画では、有珠山の噴火による影響を考慮し、2030年以降に再生可能エネルギーの導入を進める計画としております。まずは町が率先して、公共施設等に太陽光発電などの再生可能エネルギーを導入し、町民や事業者が導入する際のモデルとなる削減取組を目指します。 ご指摘の点につきましては、今後の施策検討の参考にさせていただきます。	無

ページ・ 該当箇所	意見	回答	計画修正 の有無
⑧ 第 8 章	ロードマップを見ると 2030 年では、ほとんどが情報提供や検討・計画、情報収集などが並んでいて、これで本当に温暖化対策が進むのか、疑問に思います。KPI についても、P114 からのロードマップの施策の一部しか入っていないのですが、これで 2050 目標は達成できるのでしょうか？再エネ導入による削減目標は 13.5 千 t-CO2/年で、決して少なくないと思うのですが。	・ご意見として承りました。本計画では、有珠山の噴火による影響を考慮し、再生可能エネルギーの導入は、噴火後に行うことが町にとって有益であると判断しております。そのため、2030 年度までは省エネや情報提供を主体で行い、その後再生可能エネルギーの導入を目指し、設定した再エネ導入量の目標値を踏まえながら、各取組を着実に進めることで、2050 年のゼロカーボンを達成するよう努めてまいります。	無
⑧ その他全般	若者や子どもたち・孫たちの希望ある未来のため、町民も町も力を合わせて、地球温暖化をストップさせたいと思います。 町からの具体的な行動計画を提示していただきたい。	・ご意見として承りました。このたび策定する計画は町全体の基本計画であり、この計画では、基本的な政策や施策，土地利用の方向性，町のビジョンや基本方針などを示したものです。ご指摘の行動計画（実施計画）は、基本計画で示された施策の実現に向けた具体的な取組みを示すものとなりますので、今回の計画は基本計画であることをご理解いただきたいと思います。 町民の皆様が行える脱炭素の具体的な取組方法などについては、町広報やホームページなどでお示しできるように努めてまいります。	無